

日本混相流学会 2012 年度第 5 回理事会・議事録

日時： 2013 年 7 月 13 日（土） 13:00-17:00

場所： 東京）関西大学東京センター 9 階会議室

出席予定者：

秋本肇（会長）、菱田公一（筆頭副会長）、道奥康治（副会長）、小泉安郎（副会長）、梅川尚嗣（情報部会長）、川原顕磨呂（企画部会長）、大川富雄（国際部会長）、呉田昌俊（総務部会長）、村井祐一（北海道地区担当）、尾池守（東北地区担当）、森昌司（関東地区担当、OMF 担当）、服部修次（北陸・信越地区担当、学生会担当）、土屋浩美（関西地区担当）、吉野正人（混相流シンポジウム実行委員長）、野村信福（OMF 実行委員長）、近藤健（事務局長）、高木周（総務委員）

議題と配布資料：

1. 前回議事録の確認 [資料 2012-5-01]
2. 会長選挙の結果について [資料 2012-5-02]
3. 次年度理事・役員について [資料 2012-5-03]
4. 学会賞の選考結果について [資料 2012-5-04]
5. 情報部会報告
- ①編集委員会報告 [資料 2012-5-05]
- ②論文審査委員会報告 [資料 2012-5-06]
6. 企画部会報告
- ①研究企画委員会報告 [資料 2012-5-07]
- ②学生会報告 [資料 2012-5-08]
7. 国際部会報告
- ①混相流国際会議（ICMF2013）報告、日欧二相流専門家会議の開催準備状況、混相流計測技術国際シンポジウム 2013 の開催準備状況、二相流ダイナミクスに関する日米セミナーの開催予定 [資料 2012-5-9]
8. 総務部会報告
- ①2012 年度総会資料 [資料 2012-5-10]
9. 混相流シンポジウム実行委員会
- ①2013 年混相流シンポジウムについて
- ②2014 年混相流シンポジウム開催地と開催日について
10. その他
- ①NBMB [資料 2012-5-11]
- ②第 63 回理論応用力学講演会の OS 提案について
- ③2013 年度第 1 回理事会の日程について
- 第 1 回 8 月 11 日（日） 12:00-13:00 信州大学工学部キャンパス内
総合研究棟 1 階 SUNS 会議室

議事：

1. 報告事項

1. 1 資料 2012-5-01「前回議事録の確認」について、事前確認をしていることから、1 週間後までにコメントがなければ承認することとした。（梅川情報部会長から 2.1 章に対してより正確な情報提供がなされたため修正しこれを承認）。
1. 2 呉田総務部会長が、加藤選挙管理委員長の代理として資料 2012-5-02「会長選挙の結果につい

て」により、菱田公一副会長が 2013 年度会長として選出されたことを報告した。内規により、本報告により決定となる。

1. 3 菱田次期会長候補・現副会長から、資料 2012-5-03 により、次年度理事役員案について提案がなされた。
1. 4 菱田学会賞審査委員長と高木学会賞委員から、資料 2012-5-04 により、2012 年度の学会賞審査結果が報告され決定した。
1. 5 梅川情報部会長から、資料 2012-5-05 により編集委員会の活動報告と資料 2012-5-06 により論文審査委員会報告がなされた。
1. 6 川原企画部会長から、資料 2012-5-07 により研究企画委員会分科会の活動報告がなされた。
1. 7 服部学生会担当理事から、資料 2012-5-08 により学生会活動状況について報告がなされた。
1. 8 大川国際部会長から、資料 2012-5-09 により混相流国際会議 (ICMF2013) 報告、日欧二相流専門家会議の開催準備状況、二相流ダイナミクスに関する日米セミナーの開催予定について報告がなされた。また、村井混相流計測技術国際シンポジウム委員長から、当シンポジウム 2013 (ISMTMF2013) の開催準備状況について報告がなされた。
1. 9 呉田総務部会長により、資料 2012-5-10 により 2012 年度総会資料案について提示され、議論(後述)がなされた。
1. 10 吉野混相流シンポジウム実行委員長により、2013 年度混相流シンポジウムについて準備状況が報告された。また、菱田副会長から、次回混相流シンポジウム実行委員長として村井祐一教授(北海道大学、北海道地区担当理事)に決定し、北海道地区内の開催地と開催日に関して、村井次期実行委員長と調整を進められたことが報告された。引き続き、村井次期(2014 年)混相流シンポジウム実行委員長から、開催地として札幌市内の道民活動センター「かでの」を、開催日時として 2014 年 7 月 28 日(月)から 30 日(水)の 3 日間を開催期間と確定したことが報告された。また、2014 年総会を中日である 2014 年 7 月 29 日(火)に設定することが報告された。
1. 11 川原企画部会長から、資料 2012-5-11 により第 5 回ファインバブル技術講習会について、混相流技術リエゾン専門委員会と化学工学会九州支部の共同主催で実施したい要望が提出された。参加費の振込先が明示されておらず、利益の分配や取り扱いに関する文書について不明瞭な点が指摘され、継続審議となった。
1. 12 菱田副会長から、理論応用力学講演会が毎年ではなく 1 年飛び毎に開催され、次年度はシンポジウムが開催される予定である情報を得られたことが報告されたため、講演会での OS 提案については本会理事会では審議しないこととなった。

2. 承認・決定事項

2. 1 菱田次期会長候補・現副会長から、資料 2012-5-03 により、次年度理事役員案が提案され、副会長・理事案を確認した。(副会長および理事の選出は、評議員会の承認を得て決定する)部会長および委員長の選出について、塩見インターネット運営委員長が当該運営に長年大きな貢献をされてきたが交替の時期と考え次期委員長案として細川茂雄准教授(神戸大学)が推薦された。その他の役員候補についてそれぞれの委員会で継続・交替がなされていることを確認し、本理事会の承認を得た。
2. 2 ファインバブル技術講習会について、透明性を高めるため化学工学会と「覚え書き」を交わすこととし、メール審議により理事会承認に図ることとなった。メール審議により、本ファインバブル技術講習会を化学工学会と共同主催で実施することを承認した。
2. 3 武居教授(千葉大学)から、2013 年 12 月 20 日に、合同研究会「アジアにおける混相流計測の

新しい展開」を、千葉大学と共催、日本機械学会、可視化情報学会と協賛で開催する提案が第5回理事会後にメールで寄せられ、理事会メール審議によりこれを承認した。

3. 審議事項

3. 1 梅川情報部会長からの情報部会報告に関連し、ICeM ニュースレターの海外発信に関して郵送費の削減の観点から、PDF 化して電子配信をする提案がなされた。国内会員には従来通りの冊子体（別冊子）として従来通りの配信を、海外についてはPDF 配信をとの提案内容である。審議の結果、梅川情報部会長が賞雅寛而教授（東京海洋大）と相談して次回以降報告されることとなった。
3. 2 国際会議に関して、同窓会的となり基礎水準の低下が顕著に感じられる点が指摘され、秋本会長から、国際部会マターとして、村井教授、高木教授、賞雅教授らで「整頓」ではなく「整理」を、新しい時代にあったやり方を検討することが提案された。小泉副会長から同感の意が、菱田副会長から若手の意見を尊重する事に賛成するとともに、必ず1つ増やすなら1つ減らすことが必要との意見があった。道奥副会長および菱田副会長から、ワーキンググループを国際部会の下につくって、やっけておもしろくなければ、やめた方が良いとの提案があり、大川国際部会長が検討し、ワーキンググループをつくることに決定した。秋本会長から、問題が多いことが共有され、次に向かってどういう問題なのか、どういう事が望まれているのかを次に働きかけていくと総括された。

以上

総務委員長：呉田 昌俊